

## 1. 適切な栄養知識の提供と乳幼児の母乳・補助食の実践



母乳・補助食の栄養指導を行う栄養ボランティアの育成研修の様子。研修は3日間の日程で行い、今期の新規対象村より86人の栄養ボランティアが参加した。



栄養ボランティア強化研修の様子。栄養指導に関する知識や実務的スキルの向上のため、前期（第2期）に支援を開始した村、今期の新規対象村において実施した。



調理実習での食品群について学んでいる様子。母乳育児や幼児の年齢にあった補助食の摂取などに関するセッションも行った。



調理実習後の試食会。妊産婦、授乳中の母親、栄養不良の子どもなど、のべ2,106人（男性：57人、女性：2,049人）が参加した。



事業地30村において、妊産婦、母親、保護者からなる49の母親支援グループ（624）が、保健栄養に関する勉強会を開催した。



母親支援グループでの学びあいの様子。保健栄養に関する勉強会は月1回開催された。



## 2. 村における中度栄養不良児の成長回復プログラム



栄養ボランティアによる5歳未満児を対象にした定期的な身長測定の様子。WHOの基準に沿って行われ、健全な成長を確認しつつ、栄養不良児を早期に発見することが可能となる。



栄養不良の子どもへの補助食料支給の説明を受ける母親。中度栄養不良と判定された場合、栄養ある食事についての説明を受けた上で、自宅で実践するための食料支給を受ける。



栄養不良の子どもがいる家庭への戸別訪問。中度・重度栄養不良児に対しては、月1回の体重測定の結果をもとに栄養ボランティアが各家庭でカウンセリングを行った。



子どもの栄養状態と母親の栄養状態は密接に関連していることから、妊婦および授乳中の母親も補助食料支給の対象となる。

## 3. 生計向上支援活動



家庭菜園とメンバーの親子。家庭菜園のメンバーは、実践の前に、研修で有機肥料や土壌管理などに関する知識・実務的スキルを学んだ。



家庭菜園で収穫をする女性メンバー。これらの食料を授乳期の母親、子どもたちが食することで、乳幼児の健全な成長に欠かせない栄養を摂取することにつながる。





養鶏の技術研修を受ける養鶏グループのメンバーたち。4日に渡る研修に、118人が参加した。



供与するニワトリへの予防接種。季節ごとに発生する病気を未然に防ぐことで、養鶏で得られる収入を安定化させる。



養鶏活動でとれたニワトリの卵。後ろに映っているのは、技術研修受講後、村人たちが力を合わせ作ったニワトリ小屋。



今期において供与した自転車と生計向上支援グループのメンバーたち。特に雨季の時期には、主要な運搬方法である牛車の使用が禁止されているため、この自転車が活用される。



第2期に供与された自転車は、今期も継続して活用されている。第2期対象村では、今後も活動・活動成果を維持していくために、能力強化研修も実施した。



事業完了に際し、事業完了式を実施。今期は複数年事業の最終期でもあるため、これまでの事業を通じての成果を発表するとともに、今後コミュニティの力で活動を継続していくことがいかに重要かを参加した事業関係者に伝えた。